2024 年（後期）　　授 業 計 画

科目名（副題）	開講年次	単位	担当者名
障がいと物語	2024	4	山本登志哉

授業概要

個人では変えようもない様々な条件を抱えながら日々を生きている点では、「障がい者」も「健常者」も変わることがありません。この授業では、授業参加者がお互いに自分の子ども時代の思い出、考えてきたこと、大事にしてきたこと、うれしかった思い出、趣味などを語り、お互いにその人の「自分物語」をそこに感じ取り、聞き手の自分物語と重ね合わせて、お互いの人生をさらに豊かにしていく出会いを生み出していくことを狙います。類似の実践であるヒューマンライブラリーでは、もともとは語り手がマイノリティーであることが多いようですが、ここでは上記の趣旨から、「健常者」も自分を語り、お互いを知り合うことを大事にします。

授業目標

・ほかの人の「自分物語」を聞く体験を通し、「いろんな人生やいろんな生き方」があることを実感する。
・語り手は「他者に語る力」を、聞き手は「他者の思いを聞く」力を豊かにしていく。
・「障がい」は人が生きる過程の中のひとつの条件であること以上でも以下でもないことについて考えてみる。
・以上を通し、「違いを持ちつつそれぞれに頑張って生きている人間」同士の共生を考えていく。

授業方法

前期に続き、山本がファシリテーターとなり、その回の主な語り手に自分物語を語ってもらい、お互いの物語を交流する。終了後、グーグルフォームにその回の感想を書き、次回にその一部を紹介する。その場での語りのほか、過去に障がい当事者にお話を聞いたインタビューの動画なども利用します。

成績評価方法・基準

出席 70%、授業への参加意欲 20%、発表 10%

教科書・教材・参考文献　等

「自閉症を語りなおす：当事者・支援者・研究者の対話」（大内・山本・渡辺編。新曜社）

質問への対応

歓迎します。

授業経過（授業日程に若干の変更）

項目			内容
1	10/9	授業の説明と進め方の相談	授業の趣旨を説明し、具体的な進め方を相談します
2	10/16	自分物語１	その日の語り手の物語を聞きます。
3	10/23	自分物語２	その日の語り手の物語を聞きます。
4	10/30	自分物語３	その日の語り手の物語を聞きます。
5	11/6	自分物語４	その日の語り手の物語を聞きます。
6	11/13	自分物語５	その日の語り手の物語を聞きます。
7	11/20	自分物語６	その日の語り手の物語を聞きます。
8	11/27	みんなの物語１	ここまでの物語を聞いて自分が考えたことを交流します。
9	12/4	自分物語７	その日の語り手の物語を聞きます。
10	12/11	自分物語８	その日の語り手の物語を聞きます。
11	12/18	自分物語９	その日の語り手の物語を聞きます。
12	12/25	自分物語 10	その日の語り手の物語を聞きます。
13	1/8	自分物語 11	その日の語り手の物語を聞きます。
14	1/15	自分物語 12	その日の語り手の物語を聞きます。
15	1/22	みんなの物語 2	ここまでの物語を聞いて自分が考えたことを交流します。

履修者へのコメント

語り手の方は、むつかしいことを話そうと構える必要は全くありません。素朴に自分の心に残っていること、人に語ってみたいことをお話しいただければ十分です。また聞き手はその語りをしっかりと聞くことが大事になります。マイノリティーの語りを聞くヒューマンライブラリーを考案した Ronni Abergel さんは、それを実施する際、「“本（語り手）”を大切にあつかう」「敬意をもって接する」という 2 つのルールを掲げたそうです。この授業も、「自分とは違いもあり、似たところもある他者、共感できるところも、共感できないところもある他者（もう一人の自分：異己）」の話を受け止めることが大事な目的で、そこから「どんな生き方が正しいか、誤っているか」を決める場ではありません。お互いにお互いの自分物語を「味わう」ことを大事に、自分の世界を少しずつ広げ、豊かにしていく場にしていきましょう。